

動物看護科 教育課程(新)

区分	科目名		1年		2年		3年		合計			
	分野	科目	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間		
(専門基礎分野)	基礎動物学	講義	生命倫理・動物福祉	1	30					1	30	
			動物形態機能学Ⅰ	2	60					2	60	
			動物形態機能学Ⅱ	2	60					2	60	
			動物繁殖学			1	30			1	30	
			動物行動学			1	30			1	30	
			動物栄養学Ⅰ	1	30					1	30	
			動物栄養学Ⅱ			1	30			1	30	
			比較動物学						2	60	2	60
			動物看護関連法規						1	15	1	15
	動物愛護・適正飼養関連法規						1	15	1	15		
	基礎動物看護学	講義	動物看護学概論	1	30					1	30	
			動物病理学			1	30			1	30	
			動物薬理学Ⅰ			1	30			1	30	
			動物薬理学Ⅱ					1	30	1	30	
			動物感染症学Ⅰ			1	30			1	30	
			動物感染症学Ⅱ			1	30			1	30	
			動物感染症学Ⅲ					1	30	1	30	
			公衆衛生学Ⅰ	1	30					1	30	
	公衆衛生学Ⅱ	1	30					1	30			
	臨床動物看護学	講義	動物内科看護学Ⅰ	1	30					1	30	
			動物内科看護学Ⅱ	2	60					2	60	
			動物外科看護学			2	60			2	60	
			動物臨床看護学総論			1	30			1	30	
			動物臨床看護学各論Ⅰ			2	60			2	60	
			動物臨床看護学各論Ⅱ					2	60	2	60	
			動物臨床検査学			1	30			1	30	
			動物医療コミュニケーション					1	30	1	30	
	愛護・適正飼養学	講義	愛玩動物学Ⅰ	1	30					1	30	
			愛玩動物学Ⅱ	1	30					1	30	
			人と動物の関係学			1	30			1	30	
			適正飼養指導論Ⅰ			1	30			1	30	
			適正飼養指導論Ⅱ					1	30	1	30	
			動物生活環境学					1	30	1	30	
			ペット関連産業概論	1	30					1	30	
	必修科目(専門基礎分野)計			15	450	15	450	11	300	41	1,200	
	(専門分野)	実習	実習	動物形態機能学実習	1	30					1	30
				動物内科看護学実習Ⅰ	2	60					2	60
				動物内科看護学実習Ⅱ	2	60					2	60
				動物臨床検査学実習			2	60			2	60
				動物外科看護学実習Ⅰ			1	30			1	30
				動物外科看護学実習Ⅱ					2	60	2	60
動物臨床看護学実習								2	60	2	60	
動物愛護・適正飼養実習								2	60	2	60	
動物看護総合実習Ⅰ				1	30					1	30	
動物看護総合実習Ⅱ						3	90			3	90	
動物看護総合実習Ⅲ								2	60	2	60	
必修科目(専門分野)計			6	180	6	180	8	240	20	600		
必修科目(専門基礎分野+専門分野)計			21	630	21	630	19	540	61	1,800		
(専門分野)	専門を深める	講義実技実習	動物飼育実習Ⅰ	1	30					1	30	
			動物飼育実習Ⅱ			2	60			2	60	
			動物飼育実習Ⅲ					1	30	1	30	
			ドッグトレーニング実習Ⅰ			1	30			1	30	
			ドッグトレーニング実習Ⅱ					1	30	1	30	
			トータルケア実習Ⅰ			3	90			3	90	
			トータルケア実習Ⅱ					3	90	3	90	
			愛玩動物看護師試験対策Ⅰ					1	30	1	30	
			愛玩動物看護師試験対策Ⅱ					1	30	1	30	
(社会人基礎分野)	社会の中で自分の役割を考える	講義実技実習	キャリアデザインⅠ	1	30					1	30	
			キャリアデザインⅡ			1	30			1	30	
			キャリアデザインⅢ					1	30	1	30	
			ボランティア活動Ⅰ	1	30					1	30	
	社会人として必要なビジネス能力	講義実習	ボランティア活動Ⅱ			1	30			1	30	
			損害保険学	1	15					1	15	
			基本IT技術Ⅰ			2	60			2	60	
			基本IT技術Ⅱ					1	30	1	30	
	社会人として持つべき基礎的教養	講義実技実習	イベントプロデュース	1	15					1	15	
			社会常識			1	30			1	30	
			ビジネス文章力Ⅰ	1	30					1	30	
			コミュニケーション学	1	30					1	30	
プレゼンテーション学			1	30			1	30				
環境整備	1	30					1	30				
必修科目(専門分野+社会人基礎分野)計			8	210	12	360	9	270	29	840		
必修科目計			29	840	33	990	28	810	90	2,640		
選択科目	専門を深める	講義実習	アニマルヘルパー			1	30			1	30	
	基礎的教養		ビジネス文章力Ⅱ					1	30	1	30	
選択科目計			0	0	1	30	1	30	2	60		
必修科目+選択科目総計			29	840	34	1,020	29	840	92	2,700		

・単位と時間の関係は 講義は15~30時間/単位(自宅学習を含む)のもと、実習は15~45時間/単位のものに分かれる

・科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある

・卒業の要件: 必修科目90単位(2,640時間)以上の履修

※ 実習に関しては、50分を1単位時間とする。

2023年度 シラバス

科目名	動物栄養学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NA2306		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業「動物栄養学Ⅰ」と「動物栄養学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物栄養学」の履修となる。							
授業の一般目標	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪 (脂質))						
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)						
第3回	動物栄養学総論③/犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症/食性の違い						
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記						
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて (成長期、維持期)						
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて (成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化						
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理						
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは/カロリー計算 (食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)						
第9回	肥満と消瘦/フードの給与回数、給与方法	肥満と消瘦とは/フードのタイプ: 目的別の分類、給与回数、給与方法						
第10回	手作り食	嗜好性とは/ペットフードの適切な取扱い/手作り食						
第11回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは/猫の特異性膀胱炎						
第12回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患②)	尿路結石について①						
第13回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患③)	尿路結石について②						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要					
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/				

2023年度 シラバス

科目名	動物看護学概論		単位数	1	科目コード	NB2301		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業							
授業の一般目標	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師の職業倫理について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、動物看護師の倫理や動物看護の提供、動物看護技術の特徴について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	獣医療の歴史と概念		1. 獣医療の歴史～4. 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い				教科書 P.3～16	
第2回	動物看護の役割と概念①		1. 動物看護とは～2. 動物看護における倫理				教科書 P.47～51	
第3回	愛玩動物看護師における倫理綱領①		愛玩動物看護師における倫理綱領(I～IIについて)				教科書 P.47～51	
第4回	愛玩動物看護師における倫理綱領②		愛玩動物看護師における倫理綱領(IIIについて)				教科書 P.47～51	
第5回	愛玩動物看護師における倫理綱領③		愛玩動物看護師における倫理綱領(IVについて・まとめ)				教科書 P.47～51	
第6回	動物看護の役割と概念②		3. 動物にとっての福祉・健康・QOL				教科書 P.51～53	
第7回	動物看護の役割と概念③		4. 看護動物に影響を与える環境要因				教科書 P.54～56	
第8回	動物看護の役割と概念④		5. 動物病院における動物看護師の役割				教科書 P.56～61	
第9回	動物看護の役割と概念⑤		6. 動物看護の探求				教科書 P.61～63	
第10回	獣医療における動物看護学の理論と特徴①		1. 動物看護学理論の成立過程～2. 動物看護学の成立				教科書 P.21～25	
第11回	獣医療における動物看護学の理論と特徴②		2. 動物看護学の成立(続き)～3. 動物看護学と高等教育				教科書 P.23～27	
第12回	動物看護過程概論		動物看護過程				-	
第13回	国家資格 愛玩動物看護師誕生への道のり		2. 動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生 3. 愛玩動物看護師の職能団体				教科書 P.36～44	
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト							20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	○	○					-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験 紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物薬理学 I		単位数	1	科目コード	NB2303		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物薬理学 I」と「動物薬理学 II」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物薬理学」の履修となる。							
授業の一般目標	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、動物看護師による薬物の取り扱いや神経系に作用する薬物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	愛玩動物看護師による薬物の取り扱い	1. 薬理学概論～3. 医薬品の開発				教科書 P.141～149		
第2回	動物薬理学の基礎①	1. 薬と薬理作用～3. 薬の剤形と投与方法(計算)				教科書 P.153～162		
第3回	動物薬理学の基礎②	4. 生体内での薬の動態(吸収、分布、代謝、排泄)				教科書 P.162～168		
第4回	動物薬理学の基礎③	5. 薬効に影響を与える因子～6. 薬の有害作用				教科書 P.168～177		
第5回	神経系に作用する薬①	1. 神経系の基本的事項				教科書 P.185～200		
第6回	神経系に作用する薬②	2. 全身麻酔薬～3. 局所麻酔薬				教科書 P.201～208		
第7回	神経系に作用する薬③	4. 鎮痛薬～5. 骨格筋弛緩薬				教科書 P.209～215		
第8回	神経系に作用する薬④	6. 鎮静薬、抗痙攣薬～7. 問題行動の治療薬				教科書 P.215～219		
第9回	呼吸器系に作用する薬①	1. 呼吸興奮薬～2. 鎮咳薬				教科書 P.229～232		
第10回	呼吸器系に作用する薬②	2. 鎮咳薬(続き)～3. 抗喘息薬(気管支拡張薬)				教科書 P.231～235		
第11回	循環器・泌尿器に作用する薬①	1. 血管拡張薬(降圧薬)～2. 心不全治療薬(強心薬)				教科書 P.241～249		
第12回	循環器・泌尿器に作用する薬②	3. 抗不整脈薬～4. 利尿薬、5. 抗利尿薬				教科書 P.249～257		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2023年度 シラバス

科目名	動物薬理学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2304		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物薬理学Ⅰ」と「動物薬理学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物薬理学」の履修となる。							
授業の一般目標	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
受講条件	動物薬理学Ⅰの単位履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、循環器・泌尿器に作用する薬物や消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物・化学療法薬について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	消化器に作用する薬①	1. 制吐薬と催吐薬～3. 消化管運動促進(調整薬)および抑制薬(鎮痙薬)					教科書 P. 261～268	
第2回	消化器に作用する薬物②	4. 止瀉(制瀉)薬～6. 肝・脾疾患の治療薬					教科書 P. 268～273	
第3回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬①	1. オータコイドとは					教科書 P. 279～289	
第4回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬②	2. 抗炎症薬～3. 糖尿病治療薬					教科書 P. 289～296	
第5回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬③	4. 甲状腺機能障害の治療薬～6. 骨代謝異常の治療薬					教科書 P. 297～301	
第6回	血液に作用する薬	1. 貧血の発生機序と抗貧血薬～3. 血液凝固促進薬(止血薬)					教科書 P. 305～317	
第7回	免疫系に作用する薬	1. 免疫に影響を与える薬～2. ワクチン					教科書 P. 321～327	
第8回	化学療法薬①	1. 抗腫瘍薬					教科書 P. 331～336	
第9回	化学療法薬②	2. 抗菌薬・抗真菌薬①					教科書 P. 336～343	
第10回	化学療法薬③	2. 抗菌薬・抗真菌薬②					教科書 P. 336～343	
第11回	化学療法薬④	3. 駆虫薬・抗原虫薬～4. 殺虫薬					教科書 P. 343～349	
第12回	化学療法薬⑤	5. 消毒薬					教科書 P. 349～353	
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2023年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NB2305		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物感染症学Ⅰ」と「動物感染症学Ⅱ」、「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。							
授業の一般目標	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、感染の発症・経路や細菌について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	序論 ウイルス学総論①	1. 微生物、感染症および微生物学の歴史 1. ウイルスの分類～4. ウイルスの伝播			教科書 P. 3～24			
第2回	ウイルス学総論②	1. ウイルスの分類～4. ウイルスの伝播 (続き)			教科書 P. 9～24			
第3回	細菌学総論①	1. 細菌の分類～3. 細菌の増殖・代謝			教科書 P. 29～45			
第4回	細菌学総論②	4. 細菌の遺伝子～5. 細菌の感染・発症			教科書 P. 46～58			
第5回	真菌学総論	1. 真菌の分類と特徴～4. 人獣共通感染症としての真菌			教科書 P.63～71			
第6回	プリオン総論 微生物検査法①	1. プリオン病 1. 微生物検査におけるバイオセーフティ			教科書 P. 75～76 教科書 P. 79～86			
第7回	微生物検査法②	2. 滅菌と消毒～3. ウイルス検査法			教科書 P. 87～99			
第8回	微生物検査法③	4. 細菌検査法～8. PCR検査法			教科書 P. 100～113			
第9回	免疫応答の異常	1. 自己免疫による疾患～3. 移植における免疫反応			教科書 P. 119～129			
第10回	動物感染症①	1. 病原体の感染経路と伝播様式～2. 感染症の成立と統御要因			教科書 P. 133～140			
第11回	動物感染症②	3. 感染症と病原体および生体防御機構			教科書 P. 140～151			
第12回	動物感染症③	4. ワクチンの原理と種類～6. 抗菌薬と薬剤耐性菌			教科書 P. 151～160			
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ			-			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する			-			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2023年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物感染症学Ⅰ」と「動物感染症学Ⅱ」、「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。							
授業の一般目標	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療など感染症対策の基礎について理解する。							
受講条件	動物感染症学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の内部寄生虫、外部寄生虫について説明ができる。2. 犬猫の代表的な感染症をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、ウイルス・細菌、真菌が原因となる犬猫の代表的な感染症について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備		
第1回	感染症の制御・制圧	1. 農林水産省行政による動物感染症対策 2. 厚生労働省行政による動物由来感染症対策				教科書 P.165		
第2回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ①	【ウイルス病】 1. 狂犬病～3. 犬伝染性肝炎				教科書 P.177		
第3回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ②	【ウイルス病】 4. 犬伝染性気管気管支炎(ケンネルコフ)～7. 犬コロナウイルス感染症				教科書 P.185		
第4回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ③	【ウイルス病】 8. 猫ウイルス性鼻気管炎～10. 猫汎白血球減少症(猫ヘルペスウイルス感染症)				教科書 P.190		
第5回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ④	【ウイルス病】 11. 猫白血病ウイルス感染症～14. 猫のSFTS 【細菌病】 1. レプトスピラ症～2. ブルセラ症				教科書 P.197 教科書 P.206		
第6回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ⑤	【細菌病】 3. クラミジア症～4. 猫のヘモブラズマ症(赤血球マイコプラズマ症) 【真菌病】 1. 皮膚糸状菌症				教科書 P.211		
第7回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ①	【ウイルス病】 1. 口蹄疫～4. アカバネ病				教科書 P.223		
第8回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ②	【ウイルス病】 5. 豚流行性下痢～8. 高病原性鳥インフルエンザ				教科書 P.232		
第9回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ③	【細菌病】 1. 乳房炎～4. 炭疽 【プリオン病】 序論～2. 牛海綿状脳症				教科書 P.243		
第10回	感染症学各論 -実験動物の感染症- ①	序論 【ウイルス病】 1. センダイウイルス感染症～5. ハンタウイルス感染症				教科書 P.263		
第11回	感染症学各論 -実験動物の感染症- ② -エキゾチカハットと野生動物の感染症- ①	【細菌病】 4. サルモネラ症～4. ネズミコロリネ菌症 序論～【ウイルス病】 3. ニホンカモシカのバネックスウイルス感染症(伝染性膿疱性皮膚炎)				教科書 P.271 教科書 P.281		
第12回	感染症学各論 -エキゾチカハットと野生動物の感染症- ②	【細菌病】 1. ウェットテイル(増殖性回腸炎)～5. 飼育下野生動物のエルニア症 【真菌病】 1. カバクテリウム症～2. 鳥類のアスペルギルス症				教科書 P.289		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ				-		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価:
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点～9
小テスト	○	○					20	優 (A) : 89点～80
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B) : 79点～70
授業態度			○	○			10	可 (D) : 69点～60
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2023年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅲ		単位数	1	科目コード	NB2307		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物感染症学Ⅰ」と「動物感染症学Ⅱ」、「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。							
授業の一般目標	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。							
受講条件	動物感染症学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ワクチンについて説明できる。2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、寄生虫や犬猫の代表的な感染症について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	動物寄生虫学総論	1. 歴史～9. 寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策				教科書 P. 301～309		
第2回	原虫類①	1. 総論～4. トリコモナス				教科書 P. 313～319		
第3回	原虫類②	5. トリパノソーマ～9. ピロプラズマ類				教科書 P. 320～333		
第4回	蠕虫類①	【総論】 1. 形態～3. 分類 【線虫類】 1. 総論～2. 回虫類(犬・猫・豚回虫)				教科書 P. 337～345		
第5回	蠕虫類②	【線虫類】 3. ギョウ虫類～5. 鉤虫類				教科書 P. 346～351		
第6回	蠕虫類③	【線虫類】 6. 糞線虫類～7. 広東住血線虫、犬糸状虫				教科書 P. 351～354、 P. 358～360		
第7回	蠕虫類④	【線虫類】 11. 東洋眼虫～14. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 358～366		
第8回	蠕虫類⑤	【吸虫類】 1. 総論～9. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 367～379		
第9回	蠕虫類⑤	【条虫類】 1. 総論～6. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 380～395		
第10回	衛生動物①	1. 総論～3. シラミ・ハジラミ類				教科書 P. 403～420		
第11回	衛生動物②	4. ノミ類～5. 双翅類				教科書 P. 420～429		
第12回	寄生虫症の診断と検査	1. 総論～8. 免疫診断法・遺伝子診断法				教科書 P. 435～452		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2023年度 シラバス

科目名	ペット関連産業概論		単位数	1	科目コード	ND2307		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。							
授業の一般目標	ペット関連産業に従事する者として職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット関連産業についてや動物取扱責任者としての職業倫理や業務内容を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、本校で飼育している小動物の飼育管理について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ペット関連産業概論	ペット関連産業と動物看護師					-	
第2回	ペット業界の歴史	ペット業界の歴史について					-	
第3回	ペット関連産業における職業倫理①	1. ペット関連産業における責任と社会的役割					教科書 P.265～267	
第4回	ペット関連産業における職業倫理②	2. 商取引における関連法規の概要 3. 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法					教科書 P.268～274	
第5回	ペットの飼育実態と市場規模	1. ペットの飼育実態～3. ペット産業全体の市場規模					教科書 P.279～287	
第6回	各ペット関連産業の現状と課題①	1. ペット産業の分類(グループワーク)					教科書 P.291～292	
第7回	各ペット関連産業の現状と課題②	2. 動物病院の現状					教科書 P.292～295	
第8回	各ペット関連産業の現状と課題③	3. 動物病院以外のサービス業の現状～6. その他ペット産業の現状					教科書 P.295～301	
第9回	各ペット関連産業の現状と課題④	グループワーク: ペット産業のそれぞれについて					-	
第10回	動物取扱業①	1. 動物取扱業制度の概要					教科書 P.305～312	
第11回	動物取扱業②	2. 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法および衛生管理					教科書 P.313～319	
第12回	半期まとめ	各グループに分かれて半期の内容をまとめる					-	
第13回	まとめ内容発表	12回目内容の発表(半期振り返り)					-	
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物愛護・適正飼養実習	単位数	2	科目コード	NE2308			
授業形態	実習	対象学生	3年生	開設期	通期			
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業							
授業の一般目標	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各事例において必要な情報を収集できる。 2. 各事例に合わせた動物看護計画を計画できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループで話し合った動物看護計画を、論理的に説明できる。							
授業計画(全体)								
動物看護過程の実践(事例演習)から実践力を身に付けるように授業を進める。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物看護過程の展開①<<肛門周囲腺腫の看護>>	《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第2回		《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第3回		《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第4回	動物看護過程の展開①<<骨折の看護>>	《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第5回		《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第6回		《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第7回	動物看護過程の展開①<<感染症の看護>>	《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第8回		《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第9回		《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第10回	動物看護過程の展開①<<褥瘡の看護>>	《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第11回		《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第12回		《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第13回	期末試験 動物看護過程の展開⑤<<がんの看護>>	《グループワーク》 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する			第13~15回を通しての 動物看護計画の立案・発表を期 末試験とする。			
第14回		《グループワーク 発表》 グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第15回		《グループワーク》 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S) : 100点~90点
小テスト							-	優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B) : 79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D) : 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物看護総合実習Ⅰ		単位数	1	科目コード	NE2309		
授業形態	体験型実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習Ⅰ」に位置する授業「動物看護総合実習Ⅰ」と「動物看護総合実習Ⅱ」、「動物看護総合実習Ⅲ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物看護総合実習」の履修となる。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 ・獣医師・看護師の業務内容を把握する。 ・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。 ・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。 ・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。 ・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。 							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	事前学習	オリエンテーション：ドッグショーについて						
第2回	ドッグショー見学	FCIドッグショー見学						
第3回								
第4回								
第5回	事後学習	レポート課題						
第6回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入						
第7回								
第8回	動物病院実習〈見学〉	各自で選んだ動物病院にて見学実習						
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S) : 100点~90点
小テスト							-	優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	◎	○			50	良 (B) : 79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D) : 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				20	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物飼育実習 I		単位数	1	科目コード	NI2301		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	愛玩動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	愛玩動物学 I の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認					講義	
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備						今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る	
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う					※飼育は当番学生のみで行う。	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点~60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可(E):59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	NI2302		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	飼育実技試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2023年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅲ			単位数	1	科目コード	NI2303	
授業形態	講義			対象学生	3年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う					※飼育動物の頭数・ストレスを 考え、学年末試験は2回に分けて 行う ※学生証が必要	
第14回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う						
第15回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			